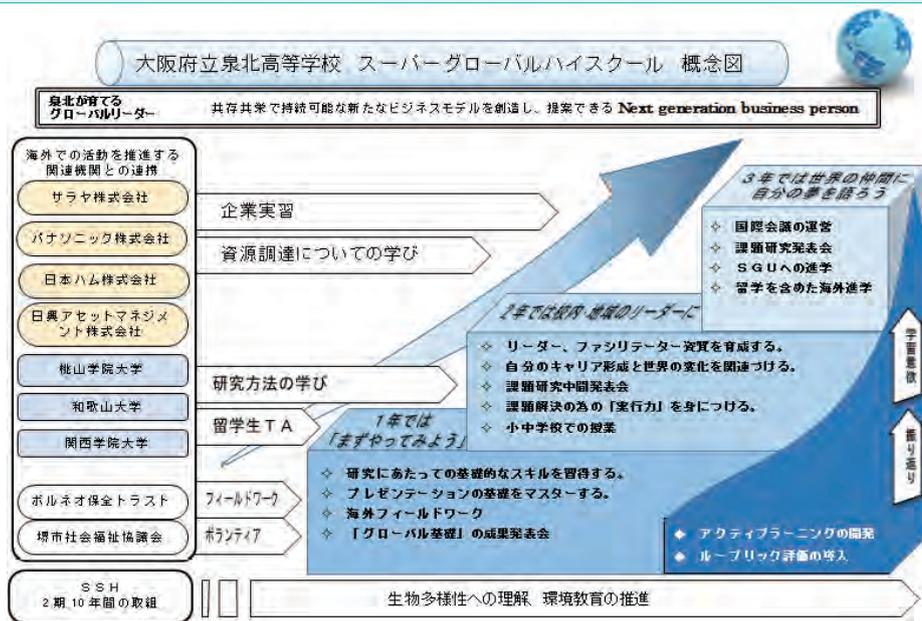


大阪府立泉北高等学校

共存共栄で持続可能なビジネスモデルを 創造する次世代リーダーの育成

【構想の概要】

グローバル・リーダーたる資質を、「志（マインド）」、「実体験に基づく知識（ナレッジベース）」、「人とのつながりを作り活かす力（ヒューマンスキル）」と捉え、それらが高校卒業時に開花できるよう、国際学科であるがゆえに獲得できる複数言語運用能力を道具として、学年進行で、課題研究とフィールドワーク、外部機関との連携活動等を有機的に組み合わせて行う。このことを通して、ビジョンを持ち、同時に地に足のついた提案力・実行力の伴う人間を育成する。



1年	
1	
2	国語総合
3	
4	
5	地理 A
6	
7	現代社会
8	
9	数学 I
10	
11	数学 A
12	
13	生物基礎
14	
15	体育
16	
17	保健
18	
19	音楽・美術・書道
20	
21	家庭基礎
22	
23	社会と情報
24	
25	総合英語
26	
27	
28	
29	
30	
31	CALL / 実用英語 ACT I
32	
33	LHR
34	(グローバル活動 I)
35	(グローバル基礎)

2年	
1	現代文 B
2	
3	
4	古典 B
5	
6	
7	世界史 A
8	
9	日本史 A
10	
11	数学 II
12	
13	
14	化学基礎 地学基礎 科学と人間生活
15	
16	体育
17	
18	保健
19	
20	数学 B 芸術表現 人間環境 ライフスポーツ
21	
22	英語理解
23	
24	英語表現
25	
26	異文化理解
27	
28	CALL / 実用英語 ACT II
29	
30	第2外国語
31	総合的な学習の時間 (グローバル課題研究 I)
32	
33	LHR
34	(グローバル活動 II)

3年	
1	現代文 B
2	
3	
4	古典 B
5	
6	
7	世界史 B 日本史 B 地理 B
8	
9	
10	世界史 日本史 地理 公民 数学 II B ライフ
11	演習 演習 演習 演習 演習 スポーツ
12	
13	古典 A 倫理 理科基礎 化学 生物 地学 コミュニティ 母語
14	研究 演習 演習 演習 演習 演習 研究
15	数学 I A 演習 総合芸術 ライフデザイン
16	
17	科学と人間生活 英会話 グローバル・スタディーズ
18	
19	体育
20	
21	
22	英語理解
23	
24	英語表現
25	
26	速読演習
27	
28	
29	
30	政治・経済 ACT III 第2外国語
31	
32	総合的な学習の時間 (グローバル課題研究 II)
33	
34	LHR
35	

※第2外国語は『フランス語文化』、『スペイン語文化』、『中国語文化』、『韓国・朝鮮語文化』から1つ選択。
※『グローバル基礎』、『グローバル活動 I・II』は希望者のみ受講。

「アクション」を重視した課題研究活動

国際文化科全員を対象に、「総合的な学習の時間」を2年次は2単位、3年次は1単位、それぞれ「グローバル課題研究Ⅰ・Ⅱ」として実施している。

生徒が自らテーマを決定し課題を「発見」し、その解明や解決の為に実際に行動を起こして外部機関や社会と連携する事を重視して、研究に取り組みさせた。具体的には下図1. で示した行程で授業を進め、1班あたり3～5名、計40班前後の研究班を作り、全班に「調査・解決策の実行」を課した。校内でのアンケートや電話・メールによる調査も認めていたが、実際に校外に出かけて外部機関と連携する例が平成29年度の17件から平成30年度には28件に増加するなど、指導の成果が出たと評価している。

また、本校は平成18年度からSSH指定校であり、「SSH課題研究」の手法を参考にして指導を行ってきた。さらにSSH課題研究発表会にSGHから代表生徒が口頭発表を行うなど、SSH事業との連携にも努めてきた。

課題研究以外でも生徒の校外活動の機会を充実させる取組みを行ってきた。学校設定科目「グローバル活動」では、学校が認定するボランティア活動を年30時間（65分授業）行えば単位を認定している。この活動を活性化するため、平成30年度には、教員歴3年目までの教員が、自らのOJT研修の一環として、地域の課題を解決する為のボランティアを社会福祉協議会と連携して企画し、生徒の募集を行った。

平成29年度には、「現代社会」の夏休み課題として、自身の住む地域の課題を「発見」し発表する宿題を課すなど、「課題研究」以外にも「生徒が主体的に学ぶ」機会を充実させようとする動きが確実に広がっている。

2年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月
		個人発表	研究班決定	テーマ決定	文献検索	
2年次	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	課題発見発表	調査・解決策の実行・レポート添削				
3年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	発表指導	成果発表	論文作成	テーマ別学習		

図1. 2～3年「グローバル課題研究」実施概要

英語運用能力の向上

1年及び2年次の学校設定科目「CALL」では、PCを使用して、生徒が英語で調べ学習を行う授業を展開している。また学校設定科目「ACT」(Advanced Comprehensive Training)では、英語4技能の習得をめざしオールイングリッシュの授業を行っている。

本校は夏季休業中にカナダや、オーストラリアへの海外語学研修を実施してきた。SGH事業としては、これらに加えプロジェクト型の海外研修として、SSHと共同実施のポルネオ海外研修、北欧海外研修を実施し、英語運用能力の向上に努めている。また、「トビタテ！留学 JAPAN」やロータリークラブを通じた交換留学、高校卒業後の海外直接進学については、進路指導部の中に新たに「グローバルキャリア課」を設け対応してきた。

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
トビタテ	長期	3名	1名	2名	0名
	短期	1名	2名	0名	2名
CEFR B1～B2 生徒の割合		0%	2.2%	28.3%	58.7%

図2. トビタテ！留学 JAPAN 合格者と CEFR B1～B2 生徒の推移

自走に向けて

SGH事業は令和元年度で終了するが、今後も「グローバル・ビジネス・リーダーの育成」を本校の目標とし、5年間の事業の成果や課題を踏まえ、以下の施策に取り組む予定である。

- ・「総合的な探究の時間」を活用し、堺市社会福祉協議会と連携したボランティア活動を実施するとともに、生徒の積極的な参加を促す。
- ・桃山学院大学から講師を招き、「プレゼン講習」や「論文講習」を実施する。
- ・英語運用能力の向上に向け、新カリキュラムの開発により英語教育の強化を図る。
- ・実用英語技能検定を本校全員に受検させるとともに、その合格を目標とした授業を実施する。
- ・在学中の海外留学や、卒業後の海外進学数の増加に向け、より充実した取組みや対応が可能となるような組織づくりを行う。